彙報

□第一研究室例會

□二月一日(金曜日)午後三時より第二回例會を開催す。出席教授は齋藤、舟橋、金子、廣瀬、上杉の諸氏、幷に助手。來る三月より本研究室に於ける兼ての懸案たる眞宗學に關する聖典の異本(刊本、映寫本、寫眞本、會本等)の集成を決議し、次で諸教授の研究事項に關する發表等ありて午後四時三十分散會す。

□二月二十九日(金曜日)午後一時より第三回例會を開催す。出席教授は齋藤、舟橋、大須賀、金子、廣瀬の諸氏幷に助手。第二回に決議したる聖典異本の集成に關して先づ宗祖の著述より始めることに意見一致し、舟橋、大須賀二教授指導の下に助手の着手することになり本學圖書館幷に侍董寮に出張調査することになれり。次で本研究室事業の一つとして眞宗學事典編纂の議ありしが決定に到らずして午後三時散會す。(物部)

□第二佛教學研究室

□本研究室は梵巴藏の原語中心の佛教研究のために、專らその方面の資料を蒐め、所屬員佐々木、赤沼(巴)、山邊、泉、藤井(梵)、寺本、山口(藏)の七教授は各々專門の研究に從事され、毎月一回の例會に於て、その結果を發表することゝなつてゐる。して第一例會は既報の如く一月二十五日に佐々木、山口兩教授當番講師に、超えて二月十五日午後三時より、赤沼教授の「龍樹の引用經論」なる發表があつた。教授は極めて綿密な着實なそして該博な批判と考證とを以て先づ、龍樹の著書中引用せる大乘經典と思ぼしきもの五十餘種の名と引用回數を擧げて、論師當時成立存在せし經典に論及し、次に根本佛典中、屈陀迦尼柯耶中に於て引用されしもの、更に雜阿含につき漢譯の原本が梵語を以て書かれしこと、龍樹の用ひしは梵本なること、而して最後にスタイン中亞發見の梵文阿含斷片を以て漢巴兩文と比較して講演を終られ、次いで質問にうつゝた。

聽衆二十八名、佐々木、泉、山口、山邊、藤井(默)等。午後五時閉會。

□三月五日午後、東京帝大教授姉崎正治博士來室。學長及赤沼教授の案内にて種々視察せられ、特に先年の經驗よりして色々震火災等不時に備ふべき事柄に對し懇切なる注告を賜つた(藤井)

□第四哲學研究室報告

□當研究室に於いては去る二月下旬當室關係教授會を開き來る四月より當室に哲學研究室の會を創むる事を決定した、要項左の如くである。

その目的は廣義に於ける哲學の研究及其の發表を爲すこと。此の目的を達成するが爲めに當分の內は每月一回例會を開くこと。

その組織は當室教授、研究科學生、及當室に於いて推擧したる諸教授を以てすること。

かくして第一回例會兼發會式を擧ぐるが爲めに關係諸員はその準備に忙殺されつゝある。（當室助手達記）

學會記事

□大正十三年二月九日午後三時より講堂に於いて本學講演部は廣島高等師範學校教授福島正雄氏を招きて特別講演會を開けり講題左の如く聽衆約百名なりき。

ペスタロッチエの宗教思想に於ける教育と宗教との關係、尙福島氏同夜本學內の宗教々育研究會の招きに應じ同會に於いても一場の講演を試みられたり。

□大正十三年二月二十七日午後二時より講堂に於いて本學講演部の主催にて、當時侍董察總會の爲め入洛されし、東京帝國大學名譽教授文學博士村上專精氏を聘して特別講演會を開く聽衆は教職員學生を始めとし外來者を合して數百仲々の盛會なりき。

一、開會之辭　佐々木學長

一、親鸞聖人と弘法大師　村上博士

眞宗大谷大學大正十三年度卒業論文題目

研究科

業の研究　正親含英

佛教美術の研究　北峰順修

儒道二教と佛教との關係　名畑應順

妙法蓮華經の研究　英秀雲

專修科

親鸞教に於ける入信過程の考察　伊澤道人

佛教唯心論に於ける思想的發展　稻垣隆

華嚴唯心義　加藤讓

他力廻向論　加藤隆成

佛教々理史上に於ける神秘主義と唯理主義　金田靈堂

念佛義の史的考察　河島研習

淨土教に於ける念佛の本質に就いて　河村義影

佛身佛土を中心とする佛思想史　神田末濟

他力の信仰意識及其の體系　木下秀諦

行信交際論　楠秀

體性關係論　古池秀雄

印度論家の教理史的位置　櫻井德周

行信の考察　白山亮一